

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農地整備課長 田和 貢	電話番号	0852-22-5149
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	一般農道等整備事業
目的	(1) 対象 農道を利用する農家等 (2) 意図 農産物輸送の効率化及び農業集落の生活環境の改善を図る
事業概要	①道路網が未整備で農産物輸送に多大な労力を費やしている地域において、中幹農道整備事業、一般農道整備事業、ふるさと農道整備事業により農道を整備することで、農産物輸送の効率化及び農業集落の生活環境の改善を図る ②既設農道施設の点検診断を行い、その診断結果に基づいて農道保全対策事業、ふるさと農道整備事業により補修・補強等を行うことで、農道施設の長寿命化及びライフサイクルコストの低減が図られるほか、安全安心な農業集落づくりに資する

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 農道の整備延長	目標値		0.0	0.6	1.3	7.8	km
	取組目標値							
	式・定義 農道整備の完了により、農産物輸送の大型化や一般車の通行が可能となった延長を指標値とする	実績値	0.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名 農道の橋梁耐震化の整備箇所数	目標値	0.0	4.0	5.0	8.0	12.0	橋
	取組目標値							
	式・定義 農道保全対策事業の実施により、耐震化が完了した農道橋の橋梁数を指標値とする	実績値	0.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,524,350	2,264,662
うち一般財源 (千円)	79,532	115,984

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

①農道整備については、平成27年度には新たに3地区で全区間の供用を開始しており、今回事業対象となる15地区のうち1地区は部分供用を開始しているなど、順次供用を開始していく予定である。 平成27年度実績（累計）1238.3km、平成28年度目標値1238.3km、平成29年度目標値1238.9km、平成30年度目標値1239.6km、平成31年度目標値1246.1km
②農道橋の耐震化については、平成27年度までに1橋が完了しており、今回事業対象となる16橋のうち8橋の耐震化工事に着手している。 平成27年度実績（累計）1箇所、平成28年度目標値5箇所、平成29年度目標値6箇所、平成30年度目標値9箇所、平成31年度目標値13箇所

6. 成果があったこと（改善されたこと）

①事業完了及び部分供用開始により、農産物輸送や一般交通にとって利用可能な農道延長が着実に増加している。
②農道橋の耐震化により、災害時の避難路及び迂回路として活用できる広域農道の機能保全が図られている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」 ・平成28年度は農道橋の耐震化予算は概ね所要額を確保できたが、農道整備の中心となる交付金予算は県の所要額を大きく下回る額となり、予定どおりの事業進捗が図れない状況。
②困っている状況が発生している「原因」 ・農道整備の中心となる交付金予算については国へ強く要望しているが、交付金の予算全体は前年並みの状況で推移しており、県の所要額を確保できない状況。
③原因を解消するための「課題」 ・現在活用している国庫事業だけではなく、同一目的の他の国庫事業への移行などによる予算の確保を検討する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・農道整備に不可欠である予算の確保については、新たな交付金事業への移行などにより所要額の確保を目指す。
・国庫事業と県単事業を効果的に組み合わせることで、事業の進捗を図る。
・全地区において、一層の建設コストの縮減に努めて事業執行を行う。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--